

2020年12月14日

環境大臣 小泉進次郎様

日頃、国政、また地元横須賀三浦の発展にご尽力いただいていること感謝申し上げます。

わたくしたちは、横須賀市ハイランドの住民です。現在建設中の石炭火力発電所の問題について、ぜひ、わたくしたちの不安や疑問を聞いていただきたく、お便りという形で、お知らせする次第です。

小泉大臣が日頃から、環境について、特に気候変動に関して積極的に働き、発言されていることを承知しております。わたくしたちもハイランドでこの問題に関するアンケートを9月にとり、3000の配布に対して、400ほどの回答を得ました。建設中の石炭火力発電所が気候変動に影響する、また、健康に害があるという回答が300名以上（約80%）また、建設は反対であるという方は253名（64%）います。国会で決議されたように、気候危機という状況を私たちも心配しています。

小泉大臣の地元である横須賀に石炭火力発電所が建設されるということが、地元に住むものとして、大臣に期待をしながらも、発言に矛盾があるのではという疑問も生まれています。

お忙しいとは存じますが、私たちの手紙をご一読いただき、特に次の点にお答えいただきたい。

また、ぜひお時間を作ってください、我々この問題について話し合ってくださいと思っています。お会いいただけるのであるならば、こちらから私たちが伺うこともやぶさかではありません。

- 1、現在横須賀市が排出している約4倍のCO₂を新設の石炭火力発電所が排出するといわれています。そのため、横須賀市では、「2050年CO₂実質ゼロ」を宣言できないばかりか、達成できないと思われませんが、いかがお考えでしょうか。
- 2、「横須賀市久里浜に建設予定の石炭火力も、将来的には二酸化炭素を出さない『ゼロ・エミッション（排出）火力』になることが10月に発表され、横須賀が今までにない脱炭素まちづくりのモデルになる可能性が出てきました。」（タウンニュース11月6日）とありますが、現在の気候危機という状況では、2030年には石炭火力そのものをゼロにする必要があるのではと思いますが、いかがでしょうか。また、(株)JERAの計画がそのようなものであるならば、計画の変更であり、改めて住民に説明会を開く必要があるのではと思いますが、いかがお考えでしょうか。
- 3、横須賀市は人口減少が続いています。「私たちの子どもや孫の世代に、横須賀・三浦の美しい自然を残し、持続可能な地域経済と暮らしを実現するため」（タウンニュース11月6日）にも、そして、現在の私たち住民の健康のためにも、石炭火力発電所はマイナスだと考えています。愛すべき横須賀に石炭火力発電所は不要だと思いますがいかがでしょうか。

私たちの手紙の中で、宗山さんは「温暖化は山も海もすべてを飲み込み」と悲しんでいます。

ハイランド「石炭火力発電所建設問題」を考える会

代表 印田 信之